

【1】概要

現在でも保険適用材料ですが、1990年代まで虫歯治療の中心はアマルガム（水銀を50%含む歯科用アマルガム）でした。その為、現在、成人の80%にこのアマルガムが詰められていると言われていています。最近では、金銀パラジウム合金が保険金属の主役ですが、安価なニッケルクロム合金も結構使われているようです。ですが、いずれの金属であっても大なり小なり、金属であることに起因した現象を引き起こします。その詳細は参考書籍をご覧くださいと思いますが、ここでは簡単に“ガルバニック電流”と“コヒーラ現象”についてだけ記しておきます。

・《ガルバニック電流》

歯の治療に使われた金属が口の中に2種類以上ある場合、その金属が舌や飲食物とふれあうと唾液を介することで電気回路ができ、微弱な電流「ガルバニック電流」を発生させ、神経の伝達に微妙なバランスのひずみを生じさせる（1種類の金属しか詰めていなくても、ガルバニック電流と似たような現象は起こる）。なお、このとき溶け出した金属イオンが臓器に蓄積され、タンパク質と結合することで異物と認識され、金属アレルギーが起きたり、その金属アレルギーと共に化学物質過敏症や電磁波過敏症を併発することがある。H-⑤

・《コヒーラ現象》

金属は電磁波を引き寄せてイオン化するという特性を有する（物理学用語でコヒーラ現象という）。金属が一般に持つこの特性のために、口の中の金属が携帯電話やパソコンからの発生した電磁波を引き寄せてイオン化し、溶け出す。そのとき、電流が発生して同時に電圧が高くなる。

心臓を動かしている心電圧は3mVがピークですが、コヒーラ現象が起こった口の中では、その100倍の300mV程度まで電圧が上がり、常に交感神経が過緊張した状態になる。その結果、肩こりや偏頭痛、耳鳴り、不眠等を誘発する。食いしばる癖がつくと、症状はさらに深刻になる。歯周病の進行、歯の咬耗症（歯が擦り減る）、顎関節症、果ては自律神経失調症などにも関わってくる。また、溶け出した金属は周囲の歯肉を刺激し、嚥下により消化管から吸収されて、体中に運ばれる（上述したガルバニック電流が流れた時も、歯根膜がストレスを察知して脳に伝達し、交感神経を興奮させる。このストレスが長期にわたると、心身のバランスを崩す）。A-⑦